アクタ通信（あくった~）　2014年　秋号

糖尿病は血液中のブドウ糖の濃度が常に高い状態になる病気です。歯周病は歯周病菌により歯ぐきに炎症がおこり歯周組織が破壊される病気です。何の関係もなさそうなこれらの病気がお互いに関係していることがわかってきました。

今回のテーマ　「糖尿病と歯周病の意外な関係」

歯周病は糖尿病の六番目の合併症！？

糖尿病で高血糖状態が続くと、全身の血管が傷つけられ、糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症といった合併症を引き起こします。これら三つの病気は発症頻度が高いことから三大合併症と呼ばれます。糖尿病がもたらす合併症は血管の障害だけでなく、免疫の働きを低下させ、ウイルスや細菌などの病原菌に感染しやすくなることもわかっています。中でも糖尿病の人に多くみられるのが、歯周病菌の感染、即ち歯周病であることが疫学調査から明らかになっています。最近では、三大合併症に次いで足病変、動脈硬化性疾患、そして六番目に歯周病が挙げられています。

歯周病があるとインスリンの働きが弱まる

糖尿病にかかっている歯周病の患者さんに歯周病の治療を行うと、血糖値が改善したという報告が多数出ていることです。歯周病が進行した歯肉では、炎症性サイトカインと呼ばれる物質が産生されます。それが血管内に侵入し、肝臓や筋肉、脂肪組織に運ばれ、血糖値を下げるインスリンの働きを邪魔し、血糖値を上昇させると考えられています。

毎日の歯磨きで負のスパイラルを断ち切ろう

糖尿病になると免疫が低下して歯周病になりやすくなる、歯周病が進むとインスリンの働きを弱め、高血糖が続き、糖尿病を悪化させる、そのことが歯周病をさらに悪化させ、インスリンの働きをますます弱めるといった負のスパイラルが起こります。糖尿病の治療前には多くの歯肉から出血していたけれど、糖尿病の治療を始めると、半年後には出血箇所が減ったとの報告があります。糖尿病と歯周病の負のスパイラルを断ち切るには、糖尿病の治療だけではなく、毎日の歯磨きをはじめ、歯周病もきちんと治療することが大切です。